

野ネコ不妊手術終了

81頭住処へ放す 事業継続訴え

八島の人工島の捨て猫をこれ以上増やさないことを目的として実施された「南の島の猫アイランド事業」が17日ほぼ終了し、不妊手術を施された野ネコのうち、まず健康状態に問題のない81頭が住処である人工島に放された。残りは状況を見ながら順次放していくという。

手術個体は耳先をカット

主催者の「公益法人 どうぶつ基金」の佐上邦久氏は最後にあ



たって、「事業は継続してゆかねば意味がない。今回はまだ緒に就いたばかりなので、今後もぜひご協力いただきたい」と語った。また殺処分ゼロを目指している「NPOゴールゼロ」の斎藤朋子理事長は、「これだけたくさん野ネコを不妊手術後に放せたことはとても嬉しい。この猫

獣医師の代表を務めた「NPOゴールゼロ」の斎藤朋子氏と耳先V字カットされた猫

たちが健康で長生きできるよう、市民の皆様で温かく見守ってほしい」と述べた。さらにこの事業を企画した「石垣島しっぽの会」会長である、早川始氏は、「猫の耳先

「ヒドイ！」体内に釣り針

野ネコ、手術し摘出

「南の島の猫アイランド事業」で捕獲された野ネコから、釣り糸とその先に付いたおもりが出ていたのが発見され、レントゲンで確認したところ、大きな釣り針を飲み込んでいたことが分かった。釣り針は30号ほどの大きさで、猫の直腸壁に刺さっていた。そこで、公益法人 どうぶつ基金」の獣医である山口

武雄氏が、16日午前中を、餌と一緒に飲み込



新型インフルエンザ発生を想定した訓練で海保の巡視艇から担架で石垣港に移送される患者(17日午後)

ラシック」(主催・同実行委員会、伊志嶺審委員長)だ。初回、22人だった参加者も回を重ねるごとに増え、今年42人となった。故郷を思う参加者の思いは強く「将来は、島のために貢献できる活動をしたい」と、意気込んでいる。

大会名の由来は石垣島の730交差点から北に伸びる栈橋通りを東

「ヒドイ！」体内に釣り針

野ネコ、施術し摘出

「南の島の猫アイラ
ンド事業」で捕獲され
た野ネコから、釣り糸
とその先に付いたおも
りが出ていたのが発見
され、レントゲンで確
認したところ、大きな
釣り針を飲み込んでい
ることが分かった。釣
り針は30号ほどの大き
さで、猫の直腸壁に刺
さっていた。そこで「公
益法人 どうぶつ基
金」の獣医である山口
武雄氏が、16日午前中
を、餌と一緒に飲み込
に手術を行い、無事釣
り針を摘出した。この
り人のモラルが強く問
猫は捨てられた釣り針
われそうだ。



レントゲン写真に写った釣り針

を寄贈するのが祖父の
遺言だった。石垣市の
強い要請もあり今回、
寄贈が実現した。祖父
も喜んでくれると思
う。古里石垣島で資料
を活用してほしい」と
と期待を込めた。
一隆さんの妻・幸子
さん(75) 横濱は
「夫が収集した膨大な

する。画像データま

新型インフルエン
ザ発生を想定した
訓練で、海保の巡視
艇から担架で石垣
港に移送される患
者(17日午後)

ラシツク(主催・同
実行委員会、伊志嶺審
委員長)だ。初回、22
人だった参加者も回を
重ねるごとに増え、今
年は42人となった。故
郷を思う参加者の思い
は強く「将来は、島の
ために貢献できる活動
をしたい」と、意気込
んでいる。

大会名の由来は石垣
島の730交差点から
北に伸びる栈橋通りを
境に各字の出身者を東
西2チームを分けて試
合を行うことから命
名。毎年7月30日前後
の日曜日に開催してい
る。
初回大会の参加者は
22人、2回目は33人、



今年開催は8月5
日に予定していたが、
台風の影響により順延
となり、14日にセル
ラースタジアムサブゲ
八重山出身者が集
い野球を通して親
睦を図った栈橋通
りベースボールク
ラシツク